

高校生へ  
私が選んだ  
1冊の本

アインシュタイン 16歳の夢

戸田盛和：著  
(岩波ジュニア新書)

伝説。アインシュタイン博士と相対性理論はまさに現代の伝説である。誰もがその名前を知っている。だがその中身を理解している人はごく少数であろうと思う。

自分も相対性理論については何冊かの本を読みその概念については一応の理解を得ていたが、釈然としない部分もあった。それがこの本では理論の骨子が的確に説明されており大変わかりやすく、また一番の謎だった光速不変の原理がなぜ導かれたのかという事についても書かれてあって大変嬉しかった。それだけでもこの本に出会えて良かったと思うのですが、自分がこの本に感銘を受けたのはもっと別の部分であった。それは、相対性理論というあまりにも輝かしい功績の影で詳しく語られる事なかったアインシュタインの素顔、彼が書いた他の論文の事とその素晴らしさ、彼を大発見へ導いた数々の大切な基礎を確立した科学者達、数学の果たした役割、彼を支えた友人達、そんな歴史の裏側にひっそりと佇んで人々の目に触れない、けれども大切なものである。それを伝えてくれたこの本に出合えて本当によかったと心から思う。

自分はアインシュタインは幼少のころから凄かったのだろうなあと漠然と考えていたが、暗記が大の苦手な大学受験に失敗したこともあるというのがとても以外だった。物理に大切なものは暗記力よりも飽くことなき探求心と最後まで考え抜く

力だと作者は書いているが、自分も全くその通りであると思う。自分は将来物理の研究に携わっていきたく思っているので、その2つの事をいつまでも忘れずにいようと思う。それともうひとつ驚いた事は、数学が一般相対性理論を支えているということであった。自分もアインシュタインと同じく専門的な数学というものはあまりにも抽象的すぎて現実を考察するには向かないとある種敬遠していたが、リーマン幾何学こそ唯一一般相対性理論を成立させるものだと知った今、やはり彼と同じく数学への深い尊敬の念を禁じえない。そして彼にリーマン幾何学の存在を教えたばかりでなく生涯にわたり彼を支えたグロスマン、彼の良き話し相手であったベッソー。この2人の友人の存在がどれだけアインシュタインの助けになったかは我々にはわからないが、並々ならぬものであったろう事は想像に難くない。

彼自身の好奇心旺盛で粘り強い性格、リーマン幾何学、そして友人達に支えられた彼の相対性理論。だがその成立を支えたものはもう一つある。人々が忘れがちなもので、最も大切なもの。それはアインシュタイン以前の科学者達である。ガリレイ、ニュートンが創始した古典力学から約200年、マクスウェルの電磁気学も加わり古典物理学は大発展を遂げた。その上でアインシュタインが現れるのである。そうやって人類は自然が内包している壮大な謎へと一步一步歩き続けて来たのであるし、これからもずっと歩き続けるのだろう。いつか全てが明らかになるその日まで。そのような日が訪れるかはわからないし、また、正直なところ訪れてほしいとも思わないが、自分はアインシュタインを敬愛するとともに、これまでの全ての物理学者と同じように「物理」と出会うことができ、自然現象の謎を追求し、それらを理解していく喜びを知ることができたことを本当に幸せだと思う。この本を読んでより強くそう思った。

(函館中部高等学校 3年 山本晃平)

通巻第58号  
2005年10月1日 印刷  
2005年10月5日 発行

©編集・発行

実教出版株式会社

代表者 島根正幸

定価 210円(本体200円)  
発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5  
TEL. 03-3238-7777  
<http://www.jikkyo.co.jp/>